

# よろこび

日蓮宗 顕聖会

本山 妙興寺

長春山 本誓寺

## 『よろこび』五十八（幸福とは何かの再考）

貫首 齊藤 日軌

近頃、領土問題などで外国に対する日本の政治家の姿勢を見るとどうも弱腰で、正しいことも言えないようである。一言でいうと女性化している。それも権力上層部がそういう傾向にある。これは、自分を顧みても人にあるものがない。日常の生活心理の中で苦痛をもちたらしめるものがある。自分を責める心理傾向、また未来に対する恐怖、焦りなどがある。此等の心理的苦痛は、人間がものを考え、未来を予想するときなどに、推論した望まざる状況に對して、恐怖、嫌悪、焦りなどのネガティブな考えや感情を起すことによる。人間頭がよくなり考えすぎるのとネガティブな考えも多く起るものである。

この心理的な苦を断つには、望まざる状況に對して起るネガティブな考え感情をカットすることである。また望まざる未来予想をあまりしないことが大切である。

どうも最近の男は考えすぎる傾向にあるのではないか。男性諸氏は眞の男らしさと云う事をこころで考えてみるべきであろう。一方、日本では女性の方が決断、実行力のある人が多いようである。オリンピックの女性代表選手のたくましい姿を見るとそう感じる。映画の世界では將軍までが女性だったりする。



## みおしえ

「心は、極めて見難く、極めて微妙であり、欲するがままにおもむく。英知ある人は心を守れかし。心を守ったならば、安楽をもたらし。〔法句經三十六中村元訳〕」

この句は、ある長者の息子が、苦しみから逃れようとして、出家したが、出家の修行の方が苦しいと悩んでいた。その悩みで身はやせ細るほどであった。その迷える比丘に仏は「あなたは、いろいろな修行をするよりただ一つのことを実行しなさい。それは、一つのことを守れば良いのです。ただ自分の心だけを守れば良いのです。」と諭された。そうしてこの偈を唱えられた。心は見難く、極めて微妙であり、欲するがままにおもむくので愚か者は心を守ることが難しい。賢者は心を守ることが出来る。心を守れば、苦から逃れ、楽を得ることが出来る。

## 心の言葉

南無妙法蓮華經と唱え  
心を守り樂を得よう

